



なお、本事業は、日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成を受けて開催された。



令和7年度全国指導委員長会議及び スポーツクライミング代表者連絡会議（SC合同）報告

開催日 5月31日（土）6月1日（日）

場 所 埼玉県伊奈町 県民活動総合センター

参加者 5／31 68名（対面31名＋Web37名）
6／1 55名（対面30名＋Web25名）

令和7年度全国指導委員長会議・スポーツクライミング代表者会議が埼玉県の県民活動総合センターで実施されました。山岳、スポーツクライミング共に指導委員会は首都圏の常任委員のみ会場にて集合形式で参加。各地からはWEB参加と会場参加のハイブリッド開催にて実施されました。

また昨年同様、山岳とスポーツクライミングの運営は兼任している都道府県も多いこともあり、山岳の指導委員長会議の後にスポーツクライミング代表者会議も併せて実施となりました。

冒頭、担当理事挨拶を副会長の古賀様よりいただき…

・登山遭難や無謀登山の問題、学校現場での登山指導者育成の必要性を指摘。 ・安全登山の普及と指導者育成への協力を呼びかけられました。

＊山岳、スポーツクライミングそれぞれの昨年度の事業報告、委員会のメンバー紹介と役割分担、本年度の事業計画の説明とそれぞれの主任検定員の状況が説明されました。

＊JSPOより学校の部活の外部委託がすすめられておりますが、クラブ活動移行に伴う法的リスク懸念されること、外部指導員としての関与に高いハードルあると問題視されました。

＊現在JMCSA傘下以外でコーチ資格が取りづらい点も問題視しておりますが、都道府県の養成講習会の対応も議論されました。また、コーチ資格と夏山リーダーの違いについて質問があり、夏山リーダーはすべての登山者対象、基本的に夏山の縦走等のリーダー育成であると説明されました。

＊スポーツクライミング代表者会議が引き続き行われ
令和7年度 事業計画

・主要事業：コーチ講習会（1～3）、主任検定員講習、更新研修、教材作成など。 ・養成講習会の実施種別や手順が説明されました。 ・今年度予定：コーチ1講習は5府県（オンライン1日＋集合2日）、コーチ2講習は2府県（集合3日＋オンライン1日）。 ・主任検定員講習は神奈川、京都で予定。

コーチ資格取得のメリット・プレゼンス向上の為、各都道府県に設置されている公共施設で、利用講習等が必要な場合、コーチ資格保有者が講習免除で利用できるように働きかけ・施設管理者との良好な関係構築等をPFの皆様をお願いしたい。

・公認スポーツ指導者等表彰

・JSPO第2号表彰（優秀選手を育てたコーチ）を各PFから推薦予定が報告されました。

＊今回、瀬田工業の瀬田さんをWEBにてお招きして。

日山協山岳共済会（山岳保険）のQ&Aを実施いたしましたが、予定時間の30分が90分となり各県・山岳会の悩みや、共済会・保険の加入促進に関する取り組みについて活発な意見交換が行われました。

＊令和8（2026）年1月JMCSA指導者表彰対象者の報告。

岩手県 土井 祐之 16年

愛知県 木田 光彦 23年

兵庫県 西村 良信 16年

対象者はコーチ資格取得から15年以上で都道府県岳連、JMCSAでの貢献が対象となります。

日本スポーツ協会の共通資格制度上の事項もあり、今後も山岳、スポーツクライミング共にそれぞれの指導委員会の活動を共有し、推進していくことになります。

＊2026年度 指導委員長会議開催予定

2026年5月30日、5月31日



記：山岳指導委員長 野村
スポーツクライミング指導委員長 藤江

Enjoy Climbing!

Enjoy Alpine Climbing! 連載④

— アルパインクライマーとしての成長 —

鈴木 雄大

次のピッチは主に雪壁だったが、最後に3mほど垂直の雪氷がでてきた。ここまで散々注意深くプロテクションを探しながら登ってきたが、どうしても20mはランナウトしてしまう。何もないよりはと、ピトンを叩き込むが、半分しか入らない。R/Xのグレードはここにつく。仕方なしにスリングをタイオフし、覚悟を決めて不安定な垂直の雪氷を乗り越え、再び同時登攀で合計120mほど高度を稼いだ。そしてリードをKeisukeに交代。遠目には簡単に駆け上がれそうに見えていた雪のセクションも殆どがサラサラのシュガースノーで、掘り出した岩などを手掛かりに進んでいく。M5ほどのミックスなどをこなしながら、順調に高度を稼ぎ、動き続けた。その後リードも2巡目に入り、同時登攀と隔時登攀を上手く使い分けながら、情報のない未知の壁にリズミカルにロープを伸ばしていく。いや、実際は5000mを超える高度の影響や、一向に進まない除雪作業にビレイヤーは待ちくたびれているだろうけど、登っている本人達は時間を忘れてクライミングにのめり込んでいた。最後は隼介が長い同時登攀の末、セラックを掻い潜って狭い稜線の上へと導いてくれた。当然ここには全ピッチの詳細を書ききれないが、ルート全体の下部半分にも満たない南壁の全ピッチが、ユニークかつ厳しく、最高に充実の登攀であった。ロープスケールで13～15ピッチ分の高度を稼ぎ、これで技術的な核心は全て足元にしたぞと内心喜んでいたら、この下部岩壁はルート全体の単なる前菜に過ぎなかったようだ。日没過ぎに4分の1ほどが宙に浮いたテントに潜り込み、足と頭が谷に落ちていたが、疲れもあってそれなりに眠ることができた。

登攀2日目、ここからは内容がガラリと変わり、傾斜の強いリッジクライミングとなる。昨年のパキスタン・ガンバルゾムでも経験したが、この50°～70°の未踏リッジというのは、壁と違って下から先の見通しが立たないので、大変に厄介だ。加えて、傾斜がない分、下部で登ってきた壁よりも更にシュガースノーがこんもりと溜まっていて、登攀スピードが一向に上がらないのだ。僕らが持っていた唯一とも言える情報であったBCで撮影した写真も、複雑を極めるマッシュルームの連続には殆ど役に立たず、登っては立ち止まり、修正



奇跡的に見つけた半洞窟で2回目のビバーク

し、の連続で冒険的なルートファインディングをこなしていった。ハイライトはこの日の夕方前だ。僕が2つの神秘的な氷のトンネルを潜り抜け、岩のクライミングで稜線を縫うように進んだ所で登攀不可能なスラブに阻まれた所、8m程反対側の斜面に降りてピッチを切ると、何とか手掛かりになりそうな雪の急斜面に手が届いた。隼介が代わってロープ一杯のトラバースで望みを繋げた。そしてその少し先には、奇跡的とも言える氷の半洞窟があり、ちょうど日没前にテントを張ることができた。まるで僕らがこの未踏のリッジを登るために用意されたのかと思うほど、幸運かつ重要な洞窟だった。結局、この日は丸一日かけて6ピッチを伸ばすのが限界だったが、ゆっくりと横になって疲れをとれたのが大きかった。

登攀3日目、今日中に複雑極まりない南スパーを抜けて南東稜に合流しないと、食糧や体力的にも先が思いやられる。前日の気の遠くなるような時間の掛かり方から、適度な緊張の中、行動を開始する。隼介の長いピッチからスタート。そろそろ安全マージンの感覚は大分麻痺してきたが、際どいトラバースなど2ピッチを快調に進め、美しい氷の穴でのビレイには感動した。3、4ピッチ目はOtsuboが担当。見た目はサクッと登れそうな雪壁なのだが、いざ触ってみると全く手掛かりにならない70°のシュガースノー。息切れの中、時間をかけて粘り強くラインを繋いでくれた。こういうのが一番辛い。そして緊張感の途切れぬルートファインディングの連続。次のピッチは、下から睨んでいると右回りで巻いていくのがスムーズそうに見えていたが、実際行ってみると悪そうに見えたので、咄嗟の判断で左から直上。傾斜は80°以上に感じられたが、雪質が硬く、スクリュウもたまに効いたので順調に伸ばせた。最後は柔らかい氷のトンネルをこじ開け、再び稜線の反

対側へ。その後もシュガースノーに苦しめられ、時間をとられつつも最低限の目標であった南東稜に合流。少しの夜間行動となったが、ギリギリでリスク許容度内と言えるセラックの真下が唯一のビバーク地だったので、仕方なくここで寝ることとした。

登攀4日目。ここからは傾斜も緩くなるので、同時登攀でグイグイと距離を稼ぎたい所だったが、むしろ全日程を通じて1番厳しい日となった。まずは朝一のマッシュルームを越すのに手と足の雪氷が同時に崩れて5メートル程フォールする始末。僕は今まで国内外の冬壁で1度も落ちたことがなかったが、全く前兆もなく手足の雪氷が4つとも崩れたのだ。これはショッ

キングだった。簡単には登らせてもらえない。情けで打ったスクリュウがなんとか持ち堪えてくれた。

気持ちを入れ替え、次のピッチ。稜線側壁の脆い岩壁にカムやナッツをきめながら、巨大セラックの真下をトラバース。本来こんな所を通りたくないのは当然だが、ここまで来たら突き進んでしまわないと、むしろ安全圏から遠のいていく。セラックの下に岩が露出していたのがラッキーだった。ところどころV級程度の動きをしながら、脆い岩を強引に進む。これ程長く未踏のリッジを進んできてしまったのだから、山頂を踏んで、反対側へ下降しなければ、見通しのつく退路は存在しない。半ば脱出行のようになってきた。

栃木県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動

栃木県には2つの大きな山域があります。日光山系と那須山系です。その2つの山域で年1回ずつ自然保護委員会が中心となって保護活動をしています。

まず、日光山系ですが7月の第一日曜日に「日光清掃登山」を開催しています。今年50回目を迎えます。それに合わせ、コロナ禍で中止していた前夜祭を復活させミニ講演を開催します。久しぶりに各会員との懇親を楽しみにしています。また今年は、1934年の「日光国立公園」の指定から90周年を迎えることから、環境省との連携イベントとして開催されます。

当日は日光湯元ビジターセンター広場に集合、開会式の後、各会各自それぞれの山域に分かれて活動します。温泉の優待やロープウェイの割引など地元の方々の協力により、毎年200名前後の参加者を迎えます。活動当初は、ガラス瓶や缶詰類が多く、昔埋められたものが露出してそれを掘り出しての活動でした。現在は登山者のマナーもよくなり、大きなゴミはなくなりました。登山道整備や草刈りなど、会ごとに作業していただいています。山域が広すぎてなかなか手が回りません。外来種の除去など、まだ課題は多いです。

そして、那須山系は9月の第一日曜日、「那須クリーンキャンペーン」として45回目を迎えます。昨年は荒天

のため中止となりました。那須もまた毎年100名以上の参加者を数え、活発に活動しています。峰の茶屋跡への登山口に集合して開会式を開きます。那須山系もゴミは少ないのですが、岩場が多いため登山道の整備が主となります。

栃木県の山の大きな問題はトイレがないことです。日光の男体山、白根山にも那須の山々にもありません。白根山や峰の茶屋跡に避難小屋はあるのですが、トイレがありません。特に那須は子どもたちが多く登ってきます。子どもたちはトイレがないと大変です。だいぶ前から働きかけているのですが、未だ実現できません。

自然災害が多発し、ケータイトイレが普及し一般の方々にも認知されるようになりました。全国的にも、山にトイレの設置ではなく、ケータイトイレブースの設置が主流になっています。今年の日光清掃登山及び那須クリーンキャンペーン時には、栃木県環境課よりモバイルトイレを無料で提供していただき、受付時に無料配布予定です。トイレ問題は早急に解決したいことではあります。行政や地元の理解や協力が不可欠です。自然保護のためにも発信し続けたいと思います。

栃木県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員長
速水敬子



日光清掃登山時の草刈活動 (2024年)



那須クリーンキャンペーン受付 (2023年)



那須岳登山道ロープ張り直し作業 (2023年)